

洞爺国際交流協会が創立20周年記念講演会

草の根交流で絆をのめる

旧 洞爺村から続いている英国青年との交流を支援してきた国際交流協会（五十嵐優子会長）が、創立20周年を記念して

8月22日、「交際交流」ポラントピア精神を養う」をテーマに講演会をとうや小学校で開きました。

町民約100人が参加して、20年に及ぶ国際交流を振り返り、あらためて活動の意義などを考えました。

講演会に先立って行われた記念式典では、五十嵐会長が「この20周年を、皆様と共にお祝いしたいと思います。この活動が二代、三代と受け継がれ、友情の絆が確かなものになることを願ってやみません」と挨拶。

基調講演では、興相（こうろき）寛昭和女子大教授が「日本にはこういう制度をほとんどの大学でとりいれていない。今後洞爺湖町で未永く活動していただき、日本の若者が英国でボランティアする日が一日でも早

くおとずれてほしい」と話しました。

パネルディスカッションでは、旧洞爺村教育長の福司重さんが、「行政、村民、議会が一つにま

とまって、しっかりと受け入れ態勢ができた」と設立当初の思

い出を語りました。英国青年の派遣元であるプロジェクト

のジョン・フレイザー海外事業部長は「今

後10年、20年この関係を続けていきたい。イギ

リスと日本との交流が草の根で

一層進んでいくことを願っています」と更なる交流を期待しました。

講演会の後には、場所を移して祝賀会が開かれ、この日のために来日した元ボランティア青年達と旧交を温め合いました。



国際交流の意義を語る記念講演会

三豊市、箱根町から小中学生が当町を訪問

姉 妹都市、友好都市として交流を深めている、箱根町と三豊市から生徒、児童らが当町を訪れ、地元生徒らと交流を深めました。

三豊市からは、7月30日から3泊4日の日程で「第17回ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー」の児童14名が来町。



職員の歓迎を受ける三豊市の小学生

地元小学生との交流を始め、サミット記念館、ビクターセンタール見学などの施設見学やカヌーでの湖水遊び、じゃがいも掘りなど盛りだくさんのメニューを体験しました。

洞爺の夏祭りにも参加し、よさこいをいっしょに踊り大いに盛り上がっていました。

一方、箱根町からは、8月4日「中学生親善訪問使節団」が2泊3日の日程で、箱根町の中学生6人が訪れました。

一行を迎えた歓迎式では、真屋町長が「洞爺湖の雄大な景色を堪能していただく」と挨拶し、箱根町の生徒を代表して宮澤庸介くんが「多くの思い出をつくり、何か箱根町に役立つものを見つけて帰りたい」と訪問の意義を話しました。

一行は、地元中学生との交流のほか西山火口散策路、サミット記念館やビクターセンターなどを見学し、友情の絆を深めました。



ホタテ養殖を見学する箱根の中学生